

平成 20 年 8 月 20 日(木) 第 5 回海岸懇談会 議事録

場 所 : 佐土原総合支所 南庁舎 2 F 研修室

配布資料 : 第 5 回 宮崎海岸懇談会 資料

◆過去の養浜データについて

質 : 過去の養浜の時のデータは蓄積されていないのか?

回 : H 1 8 年度に石崎川南に 1 万 m³と石崎浜荘南に 2 万 5 千 m³ を陸上養浜した。その結果 2 つのを確認した。

1) 養浜材が固結した。浜崖ができ、ウミガメに影響を与える可能性があった。

2) 漂砂は北から南への移動が卓越するが、台風時などは南から北に移動。

質 : 最近、動物園沖に投入した土砂のデータはあるか?

回 : 小規模な海中養浜についてのデータはない。

質 : これまで何回もの養浜実績があるにも関わらず、砂の動きが未解明である。養浜場所の選定理由は、砂浜が無い場所を守るという理由だけか?他の目的も持つべきではないのか?養浜場所には一時的に砂は溜まるかもしれないが、絶えず移動し変な地形へと変化していく。結果も予測できないのに養浜するのか?

回 : 今までの調査データでは十分とはいえない。

質 : 宮崎以外の日本や海外での養浜の成功例・失敗例の結果を参考にして、宮崎モデルとしての養浜をしてもらいたい。

回 : 今年度は、養浜材すべてが良質なものを確保できているわけではないことも理解して頂きたい。そのような中で、今年度は粗流材の動きを調査することも目的としている。また、養浜材の搬入方法により場所が制限されることも理解して頂きたい。

◆養浜の候補地と養浜材料について

質 : 動物園沖の海中養浜の場所は決定したということか?

回 : 決定したわけではない。侵食の進行が最も顕著な区間という理由でここを考えている。漁業関係者とも協議した上で、漁場に影響の少ない場所を候補地と考えている。

質 : 県中部港湾事務所が海中養浜している場所と今回の候補地の違いはあるか?

回 : 今回の候補箇所もほぼ同じ場所である。

質 : 一昨年の石崎川河口沖での海中養浜で、漁業関係者からクレームが出たと記憶し

ているが、底引き網漁に支障が無い場所ということも考え、今回の海中養浜では土砂投入場所を岸に近づけられないか？

回： 2年前の石崎川河口沖の海中養浜により不陸が生じたため、漁業関係者から同地点での養浜は控えてもらいたいとの意見があり、現在は漁業者への影響がないであろう約2km南の動物園沖で海中養浜をしている。

質： 動物園裏よりもレストハウスの方が侵食傾向が強いと勉強会では聞いている。動物園裏の方が侵食傾向が強いのか？

回： 勉強会では「レストハウス付近」という表現、今回は「動物園裏」という表現を使っているが同じ場所を示している。

質： レストハウスより北(動物園裏)に養浜土砂を投入するのは、漂砂の卓越移動方向である北から南への動きによって、投入した土砂がレストハウス方向に移動する事を見越してのことか？

回： 動物園裏への土砂投入は、現在最も侵食が顕著な場所という理由だが、南に移動することも期待している。そのために、試験養浜後からモニタリング調査を行う。

質： 小丸川の掘削土砂1万m³は、海に近い日豊本線の橋脚を守るための大切な河口砂州や、高鍋から新富にかけての海岸への大切な土砂供給源である。

回： 河道掘削は、洪水の流れにくい箇所土砂を掘削するという治水上の目的で行う。広域で考えれば小丸川の土砂も宮崎海岸への供給土砂であるため、まったく違う場所に持って行くという考えではなく、供給されるべき海岸に持っていくと考えている。高鍋から新富の間の海岸への供給が減るという意見については理解する。

質： 動物園裏の陸上養浜の目的と海中養浜の目的は違う。同時に近い場所に土砂を入れると互いに影響を与えあうのでは？場所をずらして実施すべきではないか？

回： 委員会で意見を求めたいと考える。

質： 現在の海岸と粒径が全く異なる土砂を入れると、地形や景観等へ与える影響が心配である。

質： 河道掘削と養浜とどちらのが先か？

回： 鹿嶋海岸で粗い材料の養浜効果があるという結果が出てきており、宮崎ではどうかと考えているところに河道掘削土砂が発生したため、それを活用できないかと考えた。

◆養浜の工事方法・土砂の置き方について

質： 今、動物園裏の海岸で環境などの市民調査(自然環境、砂浜の物理的要素、生物

調査等)を始めている。養浜土砂の投入方法は？

回 : トラックの運搬ルートは、有料道路から海岸に直接おりのルートを考えている。運搬中に、養浜材の固結などで浜崖の要因となる。そのため、土砂を締固めないようにブルにツメをつけて均すなど工夫する。なお、擁壁のある箇所と無い箇所に土砂を投入する予定。

質 : 工事による影響を調べる事も目的の一つにはなるが、市民が調査をしているので工事を止めてもらいたいという意見は通るのか？

回 : その場合は協議したいと考える。

質 : 海中養浜 11 万 m³ の投入方法・形状は？

回 : 海中養浜約 11 万 m³ の投入方法・形状は検討中のため、委員会からの助言を頂く予定である。

質 : 陸上養浜の断面イメージは？

回 : 台形イメージだが、締め固めない様にブルのツメでほぐした状態のイメージである。

◆調査項目・調査内容・調査方法について

質 : 波の砕ける位置を航空写真等で調査し、データを蓄積すれば海底の地形変化がわかるのではないか。

回 : 今後、海象計のデータも取っていきたいと考えている。

質 : 波浪観測は何カ所もやった方が良いのではないか。

質 : 「砂を浚渫した翌日にはまた砂が溜まっている」とマリーナ浚渫業者から聞いた。同じ場所に土砂投入するのではなく、数カ所に分けて投入してみれば効果的な土砂投入場所がわかるのではないか？

回 : 試験養浜箇所が増えると、調査箇所や範囲も増える。予算が厳しいことも理解して頂きたい。

質 : 空中写真で観測するという方法もあると思うが、砂の動きを把握する方法は？

回 : 深淺測量等で行う。空中写真は撮影した瞬間のデータなので把握が困難と考えている。

質 : 砂の移動が顕著な台風後に重点的に測量してもらいたい。

質 : 宮崎海岸は直線形の海岸であるが、養浜によって波状型の海岸線に変化していくことが想像される。その変化によって様々な影響が考えられるので、長期にわたる

調査が必要である。調査方法やデータ取得方法に注意を払ってもらいたい。

質： 海中・陸上の養浜箇所と量、離岸流の位置、トレーサー調査位置および深淺測量の時期と数値（断面図）を提供してもらいたい。

回： 今後折々に提供する。離岸流の調査は実施していないので把握できていない。

質： 傾向的な離岸流の場所をつかむ方法はあると思う。

質： 河川の土砂移動に関して、水理公式集の式での計算結果と小丸川のデータの突き合わせでわかるのでは？長期にわたる問題なのでデータを蓄積していくべきである。

◆試験養浜の期間・頻度と今後の見込みについて

質： 試験養浜の調査期間と頻度をどう考えているか？

回： 波浪や波向の調査は今後継続する。試験養浜の調査は、少なくとも2年間は必要と考えている。

【懇談会の進め方等についての意見】

◆勉強会・懇談会・委員会の人選に対する意見

質： 勉強会の「懇談会に向けての勉強の場であるから意見を言っはいけない」というルールはおかしい。勉強会の委員長が懇談会に出てこないのもおかしい。事務局は勉強会の委員長としっかり調整すべきである。委員会も年度が替わり構成も変わるはずだが、東大の「磯部雅彦」先生を推薦する。ヘッドランド前提の考え方は間違っている。国交省の海岸室が紹介している図書で矢野先生や豊島先生が書いていることを良く勉強すべきだ。特に豊島先生はコンクリート化を否定しているし、草が生えて一人前だと言っている。

◆勉強会・懇談会の位置づけについて

質： 勉強会の内容を懇談会ですることになるのか？

回： 情報を共有するのが勉強会であり、懇談会はきちんと住民の意見を聞く場と考えている。

質： 今までと変わらないということか？

回： 勉強会は、勉強するテーマを決めてやって来たので今までと変わらない。懇談会を「委員会の内容を伝える」から、「委員会へ意見を伝える」にしていきたい。

質： 委員会・懇談会の意見をまとめ、その意見をどう取り入れるかを考え、判断するのが国の役割である。意見を言うことが我々住民の役目だと思う。

◆懇談会の役割と意見を広く聞く方法について

質 : 地元の説明会を別にするのではなく、懇談会と一緒にやるという方法もある。
回 : 地域の方も都合があり、懇談会に出てきてもらうことがなかなか出来ない。その場合は、こちらから出向く必要もあると考えている。行政も懇談会について悩んでいるので、皆さんの意見を聞かせてもらいたい。

質 : 委員会での討議結果を懇談会でフィードバックさせるのではないのか？
回 : 昨年度は委員会の1ヶ月後に懇談会で委員会の内容と、次回委員会の議題テーマに対する意見を聞いてきた。

質 : パネルディスカッションなど、みんなが聞いている中で討議する方法もある。
回 : パネルディスカッションも一つの方法である。テーマやパネリストをどの場で選定するかを検討が必要になる。

◆懇談会への検討委員会委員の出席要望

質 : 委員会に意見が伝わりにくいというのであれば、委員に一人ずつ懇談会に来てもらったかどうか？
回 : 意見としては伺っておくが、なかなか都合のつかない委員もいます。
質 : 5名の専門的学術者だけでも良いので、懇談会に来て、専門的な話をしてもらいたい。またこちらからの質問できる企画を立ててもらいたい。

以上